

福王寺だより

早いもので今年ももうすぐ終わりです、春には四国を巡拝させて頂きました。また今年には本堂や庫裡、境内の周りの修復整備をすすめて頂き、福王寺もより良い環境になった年でもあったと思います。また葬儀のパンフレットも発行させて頂きました。

お寺が皆様の心を癒し、育む場所であるよう精進して行きたい所存です。

お子さんやお孫さんまで、うちのお寺はこんなところだよと教えて頂ければと思います。

お初穂志納金のお願い

お初穂ってなに？

福王寺では、毎年年度末に「お初穂として」寄付のご案内をさせて頂いております。

檀家さんの中には、維持費と間違えられる方がいらつしやるのですが、お初穂は維持費ではありません。

昔は、畑や海で収穫されたいわゆる「初物」

と呼ばれるものを神仏へ捧げて、供養していただきました。感謝のしるしです。

「お初穂」とは、収穫、今では収入の一部を一年の生活への感謝の気持ちとして神仏にお供えする事でありませう。

簡単に言えば、年の最後に感謝の心を神仏にお供えする寄付となります。

福王寺では、こういった趣旨にて「お初穂」をお願いしております。

ご理解を頂き、檀信徒の皆様にも例年は、三千円から三万円程度、

お力、お気持ちにに応じ、お供え頂いております。

地方の方には振り込み用紙を同封させて頂いておりますので、趣旨をご理解の上協力頂けましたら幸いです。

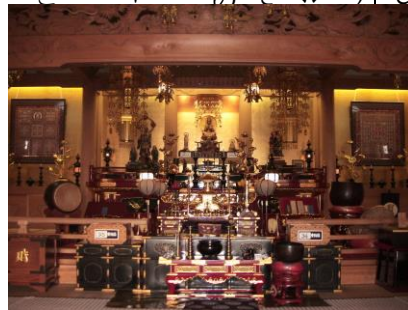
皆さまに本尊様の加護がありますよう。

以下転載

栗山町の米田弘仁僧正が記事にしております、津別の檀家さんにも聞かれましたので、この度転載させていただきます。

「おりん」は鳴らしたらだめ???

「おりん」は鳴らしたらだめ???



先日、テレビをつけるこんなことをおつしやているお坊さんがいました。

「仏壇をおがむとき、「おりん」をならしてはいけません！「おりん」を鳴らすのはお経の調子をとるためのものであつて、ほとけさまを呼び出す呼び鈴ではないのです！」。

いやはや呆然としました。知らないというのはおそろしいことです。たしかに、「おりん」が呼び鈴ではないという事は間違つていませんし、お経の調子を調える打楽器としての役割があるということも間違いはありません。しかし「**仏壇で仏様を拜むときに「おりん」を鳴らしてはいけないというのは大きな間違いです。**」

「おりん」はもともとカンチというインドの言葉で、打木のことをいいます。これが中国語に訳されて「磬(けい)」とか「鐘(しやう)」となり、日本では「おりん」とか「きん」とかと呼ばれるようになりました。

このカンチが仏具として使用されるようになってきたことには由来があつて、ただ単に打楽器としてのみ使われてきたわけではないのです。その由来となつた故事とは、次のようなお話です。



昔、インドにケイニタ王という王様がいました。ケイニタ王はとなりのアンソク国と戦争してその国の人々9億人を殺したのです。そのあまりにも暴虐ぶりをみるにみかねた一人の羅漢（お坊さん）がケイニタ王のところを訪ねてこういきました。

「ケイニタ王よ、さきの戦争で殺したアンソク王とその国民が死後にどうなっているかみてみませんか？」

「おう、それはおもしろそうだ。見せてみよう」

羅漢は神通力を使

つて、地獄に落ちているアンソク王たちの様子を見せました。アンソク王とその国民は何度も戦争を行った悪業の報いを受けて、地獄の血の海で魚として生まれ変わつてもがき苦しんでいました。



するとどこからともなく輪剣が飛んできて、その魚たちの身体を真つ二つに切つていくのです。魚たちは苦しみながらもがいています。ところがそこは地獄、どこからか風が吹いてきて、その風を受けると身体がふたたび元にもどるのです。するとまた輪剣が飛んできて、真つ二つにされ

れる。また風がふき元の身体に、ということをずつと繰り返していたのです。

その惨状をみたケイニタ王もさすがに「これはあまりにもひどすぎる。羅漢よ、あの者たちをなんとかして救い出すことはできないのか。」といつて救済を懇願しました。

「王よ、あの者たちはみずからの悪業が消えるまであのまま苦しみ続けるしかありません。ただし、あの輪剣をわずかな時間、とどめておく方法はあります」

「おう、ではそれをやつてあげてくれ。たのむ。」

羅漢はカンチを取り出し、それを打つて音を鳴らしました。すると、それまで狂つてたように飛び回つていた輪剣がその音色を聞いて停まるのです。しかし、音が鳴り止むと、ふたたびもとのごとく飛び回つて魚の身体を切り裂くのでした。

羅漢よ、もつとカンチを鳴らして少しでもあの輪剣をくいとめてくれまいか。音を長く響かせて少しでもアンソク国の苦しみをいやしてあげておくれ。」

「おりん」を鳴らすのはお経の始まりと終わり、お経とお経のあいまに、あるいは合掌礼拝の合図としてならします。

しかしそれは決してお経の調子をとのえるためだけのものではなく、亡くなった人々の苦しみを

を癒すために鳴らすのです。おりんの音が「子ーン」と長く響くように作られているのは全くそのためなのです。ですから、仏様やご先祖様に対して必ず「子ーン」と供養のために鳴らして頂きたい。

そして、この鳴らすという行為がなき人々の苦しみを軽減させる由来にもとづくものであるというのを、是非理解して頂きたいのです。

弘法大師が高野山の梵鐘の寄進を依頼する文章の中で

「カンチひとたび打てば三千の衆、雲のごとくに集まり、霜鐘みたび振れば四生の苦、氷のごとくにきゆ。故によく鬪尼、刀輪をまぬかれ、獄卒、鑊湯をやむ」

といっているのはまさにこのことです。

「鬪尼」というのがケイニタ王のことです。



行事のご案内

十二月二十一日

十一時

「納め大姉」

今年最後のお大師様の縁日です。

福王寺婦人部中心でお参りしております。
どなたでもお参りできますので、お参りください。

また婦人部も
津別の方が中心
となっております
が、地方の方も
若い方も歓迎で
す。是非入部頂
き、お寺の仲間と
の縁を深めましょう。



一月一日 午前零時

「修正会」(初詣)

新しい年に際し、檀信徒皆様の一年の幸せを
祈る御祈願をしております。
御祈願したお札を皆様の家にお届けに「年始
参り」として伺っております。

初詣こられた方にはご記帳していただいております。

ります。ご記帳簿は一
年間、曼荼羅の前に奉
納致します。写経等
もできます。お参りは
ずっと座ってお参り頂
くような事でもあり
ませんので、新年に際
し本尊様、先祖様へ
ご挨拶して頂ければ
幸いです。



一月二十一日

午前十一時

「初大師 檀信徒新年会」

お大師様の新年はじめてのご縁日です。東
寺の初大師は有名ですね。カレンダーにも書い
てあるものもございます。

お大師様の弟子として、福王寺の檀信徒と
してこのご縁日にお参りし、新年会を行い交
流を深めております。是非皆様ご参加くださ
い。
参加費千円となっております。

二月三日 福王寺

午後二時

二月十一日 北見別院

午後一時半

「節分 厄除け祈願、

各種祈願」

男性の厄年

二十五歳…1995年 平成七年)生まれの男性

四十二歳…1978年 昭和五十二年)生まれの男性

大厄

六十一歳…1959年 昭和三十四年)生まれの男性

女性の厄年

十九歳…2001年 平成十三年)生まれの女性

三十三歳…1987年 昭和六十二年)生まれの女性

大厄

三十七歳…1983年 昭和五十八年)生まれの女性

六十一歳…1959年 昭和三十四年)生まれの女性

- 家内安全
- 交通安全
- 安産祈願
- 合格祈願等



寺院からのお知らせ

第三回下座行

二年連続秋の下座行は雪にて、落ち葉を片付けられない状況となっておりましたが、今年のは暖かい天気の中執行することができました。

落ち葉が多く大変でしたが、綺麗に片付けることができました。ぜひ皆様も運動にお手伝いください。大きな布施の功德です。



報讃会

今年も皆様のお蔭で密教の法会である理趣三昧法会を教区寺院さんのお力を得て執行する事が出来ました。

布教師は北海道自治布教団より、湧別町宝珠寺 米本智泉僧正でした。

一年の仏様、お大師様の働き、皆様の働きに

感謝しお勤めさせて頂きました。



御詠歌慰問

今年で五回目になりました。福王寺金剛講では、津別にある老健施設へ慰問に伺っております。今年から「夢ふうせん」「ケアハウス」も慰問させて頂きました。有り難い限りです。

施設にいてなかなかお寺に来れない方にとつてもありがたい時間であるとお聞きしております。お互い元気で続けていきたいですね！

みなさんとても安らかに、楽しく聞いてくださり本当にありがとうございます。

仏縁があり、幸せでありますよう心からご祈念申し上げます。

福王寺ホームページ

福王寺では、様々な活動をホームページにて掲載しております。是非皆様もご覧いただき、家族にもご紹介して頂きたいと思えます。

子どもたちはお寺や仏壇と疎遠となり、祈るといふ事が無い環境にあります。

縁を大切に、心を育むお寺でありたいと思えますので、古里のお寺こんなことをやっているよと声をかけて頂ければ幸いです。

<http://fukuoji.info/>

合掌

